

カナダ英語の発音

三宅 亨

はじめに

イギリスを訪れたカナダ人はしばしばアメリカ人に間違われることがあるという。また、彼らがアメリカへ行くと、イギリス人ではないかと尋ねられることが時々ある。カナダ人の話す英語（特に発音と語彙）がイギリスやアメリカの英語と少し異なるからである。この話には多少の誇張はあるにせよ、有り得ないことではない、とカナダ人自身から聞いたことがある。

本稿では現代カナダ英語における発音の特徴を考察する。ひとくちにカナダといっても世界で2番目に広大な面積をもつ国であり、当然のことながら発音にも様々な地域差がある。また、教育・職業・社会的地位・年齢・性別などによる違いも予想される。しかし、19世紀後半以降に鉄道の開通によって急速に移住の進んだオンタリオ以西のカナダでは、かなり均質的な英語、いわゆる Standard Canadian English が話されている。本稿では、一応ブリティッシュ・コロンビア州（以下 BC と略）を中心としたカナダ英語の発音の特徴を幾つか取り上げてみることにする。

筆者は、1988年夏から翌89年春にかけてバンクーバー近郊でカナダ英語の綴り字・語彙・文法的特徴などについて様々な角度から語法調査を行なったが、この調査期間中にカナダ英語の発音の特徴にも注目し、その都度記録に残しておいた。1990年春に再び現地語法調査を行なう機会に恵まれた際、以下に述べるような方法でカナダ英語の発音の実態を探ろうと試みた。

1. 調査方法

1972年春に the Canadian Council of Teachers of English (CCTE) と the Canadian Linguistic Association (CLA) が協力して行なった the Survey of Canadian English は、筆者の知る限りでは、これまで実施されたカナダ英語に関する語法調査の中で最も包括的なものである。カナダ全州の第9学年 (Grade 9) の生徒とその両親の計14,228名を対象に実態調査が行なわれ、その結果は Scargill (1974) に公表されている。その104調査項目のうち40項目以上は発音に関するものである。

筆者は、この Scargill (1974) の調査項目を検討し、これを参考に42項目についてカナダにおける英語発音の実態を調べてみることにした。調査はバンクーバー近郊住民150名を対象として1990年3月にアンケート¹⁾により実施した。発音記号を使用すると混乱のもとになるので、Scargill と同様の方式、すなわち「押韻語選択方式 (rhyming)」や「Yes-No 質問型式」を用いることにした (アンケートについては本稿末尾参照)。同時に、必要に応じて何人かの回答者と直接面談を行ない、いくつかの参考になる情報も得ることができた。

この調査には全部で101名から回答が寄せられたが、そのなかにはアメリカやイギリスをも含めた外国生まれの人々が27名含まれており、この人たちの回答は本稿の集計データから除外し、残り74名の回答を検討することにした。その理由は、語彙や文法項目などとは違って、発音に関しては成長あるいは学習の比較的早い時期に習得した特徴がかなり長く残るので、できる限り「カナダ生まれの人々」の発音に考察対象を絞りたいと考えたからである。

このカナダ生まれの74人の出身地 (州別) は次に示すとおりであるが、調査場所からして当然のことながら BC 州出身が過半数を占めており、残念ながら東部の3州 (Nova Scotia, Prince Edward Island, Newfoundland) と2准州の出身者はサンプルの中に含まれていない。偶然にも、回答者のほとんどは Standard Canadian English の使用されている地域の出身者であ

る。

	BC	Alta	Sask	Man	Ont	Que	NB	NS	PEI	Nfld	NWT	YT	計
男	20	2	1	2	4	3	0	0	0	0	0	0	32
女	26	4	4	1	4	2	1	0	0	0	0	0	42
計	46	6	5	3	8	5	1	0	0	0	0	0	74

また、回答者の年齢および性別分布は次のようになっているが、彼らの職業・社会的地位は様々である。20代の回答者が多いのは地元の University of British Columbia と Douglas College の学生が協力してくれたためである。

	20未満	20代	30代	40代	50代	60以上	計
男	2	13	5	5	4	3	32
女	1	16	10	10	4	1	42
計	3	29	15	15	8	4	74

2. 調査結果

調査の結果を「母音」, 「子音」, および「その他」の3項目にわけて考察する。その際、可能な限り、一般にアメリカ英語およびイギリス英語の標準とされている発音²⁾との比較を試みる。現代カナダ英語について参考になる辞書としては *Gage Canadian Dictionary* (以下 *GCD* と略, 1983) がある。最近出版された Wells の *Longman Pronunciation Dictionary* (以下 *LPD* と略, 1990) は現在の英米両方の英語発音を記述的に扱った優れた発音辞典である。本稿では、これらの辞書の記述をも適宜参考にしながら考察を進める。

発音の異同・変化については歴史的考察が必要であり、その点についても現時点において可能な範囲で明らかにしようと試みた。

また、調査結果をもとにして、必要に応じ、BC 州とその他の州の出身者との比較、あるいは年齢層や性別による違いなどにも注意してみたい。

2. 1 母音

まず、new【アンケート質問2】や student【質問3】などの語中の母音からみていく。下線部の発音は、一般にアメリカでは [uɪ]³⁾、イギリス英語では [juɪ] と発音されるといわれている。この現象は子音 d-, n-, t- の後で生じやすく、GCD では duke, news, student などの語に上記2種類の発音を認めている。ちなみに [uɪ] という発音は既に16世紀の英語の中に認められている。

筆者の調査結果は次の通りである。

	[uɪ]	[juɪ]	either
new	20.3	70.3	9.5
student	60.8	32.4	6.8 (数字は%, 以下同じ)

この表からは、両語の母音の発音傾向は必ずしも一致しないことが分かる。さらに細かく分析してみると、new の場合には男女差はほとんど認められないが、student に関しては女性の73.8%が [uɪ] という発音であるのに対し、この発音をする男性は全体の43.8% (BC 男性の35%) にとどまるという特徴が現われている。

筆者の調査でみる限り、比較的男女差の大きいのは genuine【質問5】という語の下線部の発音である。下表でみるように、全体では単母音 [i] の使用者が多いが、女性では二重母音 [ai] も単母音とほぼ同じ程度好まれる傾向が認められる。ただし、Scargill の報告 (1974) では性差はほとんど認められていない。

	[i]	[ai]	either	無回答
全体	52.7	31.1	14.9	1.4
男	65.6	18.8	12.5	3.1
女	42.9	40.5	16.7	

genuine と同じように2種類の発音を持つ語尾 -ine を含む語には、quinine や iodine があるが、bovine や feline は通常 [-ain] と発音される。

GCD [s.v. genuine] の発音注記には「[-ain] は教養あるカナダ人の間で
 しばしば聞かれるが、多くの人々は無教養な発音 (vulgarism) とみなし
 ている」とある。また、LPDには incorrect という印が付けられている。
 しかし、この二重母音はアメリカでもしばしば耳にすることがある。

次に、英米で発音が異なるといわれている語について取り上げてみる。動
 詞 eat の過去形 ate 【質問28】の発音はアメリカでは [eit], イギリスで
 は14世紀に生じた [et] が標準的⁴⁾であるといわれているが、カナダでは
 [eit] と発音する人が断然多い。

[eit]	[et]
98.6	1.4

tomato 【質問13】も英米で下線部の発音の異なる語であるが、この場合
 も圧倒的にアメリカ風の [ei] という発音が多い。

[ei]	[ɑː]	[æ]	[ɑ]
87.8	0	8.1	4.1

rat と押韻する [æ] と答えた人が6名いるが、出身地別には BC 3名、
 ケベック2名、ノバ・スコシア1名であった。

either 【質問25】の下線部は英米共に2種類の発音が認められるが、一般
 にアメリカでは長母音 [iː], イギリスでは二重母音 [ai] という発音が多
 い。[ai] という発音は比較的新しく、19世紀になってから英国で生じたも
 のらしい [McConnell, 1979 : 33]。

今回カナダでの調査では、次表のとおりアメリカ発音が優位である。

[iː]	[ai]	either
56.8	32.4	8.1

しかし、筆者のバンクーバー滞在中の印象では [ai] の発音をもっと頻繁に
 耳にした。そこで、BC 州出身の男性の発音だけを取り出してみると、上の

比率は9 : 10 : 1 となり、イギリス風の発音がかなり好まれていることが分かった。ただし、[ai] という発音をする BC 州生まれの女性は23%にすぎない。

leisure 【質問21】 の下線部は、米音では長母音 [iː] が、英音では単母音 [e] が普通であるが、カナダではアメリカ発音の方が優勢である。

[iː]	[e]	either
56.8	29.7	13.5

missile 【質問27】 の下線部の母音は、アメリカでは [ə] (しかも、この音はしばしば省略される)、イギリスでは [ai] と発音される。歴史的には単母音 [i] の発音が [ə] と変化し、後になって英国では長母音 [iː] を経て二重母音化し [ai] になったといわれている。すなわち、米音の方が16世紀当時の発音を保っているわけである。

筆者の調査では次のとおりで、米音が優勢である。

[ə]*	[ai]	either	
75.7	13.5	10.8	(*または、省略)

squirrel 【質問18】 という語が「curl と韻を踏む」と答えた者は全体の86.5%にもものぼる。これは、下線部が [əː] と発音され、英国風に [i] と発音されることが少ないことを物語っている。

以上の6語はカナダ英語においてアメリカ英語の発音が優位な例であるが、逆にイギリス英語の発音が好まれる現象もみられる。

ration 【質問38】 の下線部の発音は、米音では [ei] で、英音では [æ] である。調査結果からは、圧倒的にイギリス発音が用いられていることがわかる。

[ei]	[æ]	either
12.2	82.4	5.4

接頭辞 anti-【質問9】および semi-【質問8】の i も英米では発音が異なるが、この場合もアメリカ発音の [ai] よりもイギリス風の単母音 [i] が好まれている。

	[ai]	[i]	either
anti-	6.8	75.7	17.6
semi-	6.8	79.7	13.5

lever【質問1】の下線部は、米音では歴史的に古い単母音 [e]，英音では長母音 [iː] が一般的である。この語に関する調査でも次に示すとおり英音が優位である。

[e]	[iː]	either
16.2	63.5	20.3

soot【質問39】は、米国では長母音 [uː] が普通であるが、英国では単母音 [u] が広く用いられている。筆者の調査からは、カナダでは英国型の単母音が優勢であることがわかる。なお、GCD は単母音の発音のみ記載している。

[uː]	[u]	[ʌ]	無回答	
13.5	86.5	1.4	1.4	(複数回答)

なお、[ʌ] という発音は17世紀終わり頃に [u] と共に英国で生じた発音で、今日でも米国東部の庶民の間に現存する音であり、Scargill の報告ではカナダでも Newfoundland 地方には若干残っているという。

again【質問19】の下線部の発音について、多くの辞書に [e] と [ei] の2種類の発音が表記されている。LPD には、イギリス英語に関する270人

の意見調査 (BrE poll panel) の結果では、80%が単母音発音 [e] を好むとした上で、“Many speakers use both pronunciations.”と注記している。GCD では2種類の発音を併記してある。筆者のカナダでの調査結果では、[ei] がやや優勢である。

[e]	[ei]	[i]
41.9	59.5	0

一般には長母音で発音される (ことの多い) 語が単母音に変わることがある。その例を幾つかあげてみる。

roof 【質問22】の母音は、ME では長母音 [ɔː] であり、moon や soon と同様に [uː] となるのが母音変化の法則に合っている。ところが、17世紀末の英国では foot や book と同じ単母音 [u] となり、2種類の発音が生まれた。現在のアメリカでは単母音も認められている。

[uː]	[u]
90.5	9.5

creek 【質問23】は、北米では一般に「小川」を意味し、creek のつく地名も多い。⁵⁾ この語の語源には諸説あり、そのために複数の発音が存在しても不思議ではないが、英国では長母音 [iː] のみが用いられ、米国では単母音 [i] も併用されている。

[iː]	[i]	either
95.9	0	4.1

GCD には、単母音は特にカナダ西部 (the West) で一般的であると述べられているが、「どちらでも (either)」と回答したのは、アルバータ州出身の女性 (50代)、オンタリオ州からの男性 (69歳)、同じくオンタリオ出身の女性 (40代) の3名で、若者や BC 出身者の中には単母音はみられない。

yeast 【質問30】は極めて古い語で、OE の “gist” から ME の “yest”

を経て誕生した語である。18世紀の終わりに母音の発音が長母音 [i:] になった。ところが、Scargill によれば、現在でも稀にはあるが古い発音である単母音 [e] が現われることがあるという。筆者の調査では、アルバータ州出身の20代の女性1名にのみ [e] という発音が認められた。ちなみに GCD には [e] の発音はみあたらない。

上の諸例でみる限り、英米の標準発音中の長母音を単母音で発音するのは少数派であるが、次の例はどうであろうか。「cot を caught と同じように発音するか?」という【質問26】に対する回答は次のとおりで、カナダ人の多くが同じ単母音 [ɑ] を用いていることがわかる。

同じ	違う
90.5	9.5

しかし、イギリス人や多くのアメリカ人は、この2語をはっきり区別して発音する。米イリノイ州南部ではカナダと同じ発音も用いられるという。

また、「ant と aunt は同じ発音か?」という【質問31】に対して、「同じである」と答えた回答者が全体の約3分の2を占めている。「時々」という回答も含むと、BC 出身者では78.7%が同じと答えている。

同じ	違う	時々同じ
66.2	20.3	13.5

多くのカナダ人はこの2語を [æ] という母音で発音している。

逆に、現在の英米標準発音で単母音とされる音が長母音になる場合があるか否かをみることにする。bury【質問10】の母音は英米とも標準音は [e] であるが、カナダでは英国南西部のかつての発音の名残りである [ə:] も認められる。

[e]	[ə:]	either
66.2	27.0	6.8

特に男性回答者の37.5% (either を含めると53.1%) が古い発音 [əɪ] を用いているのは興味深い。

deaf 【質問35】の下線部は [e] と発音されるのが普通である。母音変化の法則に従えば, sea や leaf などのように [iɪ] となるべきところであるが, 18世紀末頃に現在の発音になった。北イングランド地方には [diɪf] という発音が記録されており, カナダでも北西海岸地方 (BC 州) でわずかながら使用されていた。

[e]	[iɪ]
98.6	1.4

ちなみに [iɪ] と答えたのは, BC 出身の30代男性1名だけである。

二重母音と他の母音 (単母音・長母音) との交替の例をみることにする。home 【質問36】は, 標準的には [ou] と発音される。Scargill (1974) によれば, 英国 Midlands から南西部にかけて mother と韻を踏む [ʌ] という発音が記録されており, 北米でも New England 地方に記録がある。彼の報告によるとカナダでは [ʌ] と回答したものが2%ほどあったが, 筆者の調査では全員が [ou] であり, [ʌ] という変異形はみられない。

[ou]	[ʌ]
100	0

名詞 progress 【質問33】の下線部の発音は, アメリカでは単母音 [ɑ], イギリスでは [ou] が多い。カナダについての調査結果は下に示すとおりで, 両方の発音が用いられていることがわかる。

[ou]	[ɑ]	either
55.4	43.2	1.4

route 【質問34】では長母音 [uɪ] が普通であるが, 米音では二重母音

[au] となることが知られている。LPD の解説によれば、英国では [au] と発音されるのは陸軍用法 (army usage) に限られる。

この語に関するカナダ人の発音は下表にみられるように長母音 [u:] が普通である。

[au] ⁶⁾	[u:]	either
5.4	81.1	13.5

ただし、GCD の注記では、「新聞や牛乳などの配達順路」の意では [au] が一般的 (common) であるという。

母音に関してカナダ英語らしい特徴の例を以下に幾つかあげておく。

まず father 【質問16】 という語についてみる。アンケート調査では4つの選択肢を与えたが、多くの辞書では farm と farther の母音は同種類と扱っているので、集計上はこれを一つにまとめた。その結果は次のとおりである。

[ɑ]	[æ]	[ɑ:]
50.0	1.4	48.6

なお、この語の英米での発音はともに第3番目の発音が一般的である。

calm 【質問17】 の母音に関する選択肢も4つあるが、ここでも cat と Sam の母音の違いを求めるのは困難であるので、これを一つにまとめて集計した。英米で一般的なのは下の最初の発音 [ɑ:] である。

[ɑ:]	[æ]	[ɑ]
18.9	4.1	77.0

guarantee 【質問41】 の下線部の発音については、英米とも [æ] を標準発音とする。これに対し、care と韻を踏む [εə]⁷⁾ の発音はカナダ英語に特徴的に認められる発音である。

[æ]	[ɑː]	[ɛə]	無回答
23.0	8.1	67.6	1.4

今回の調査には含めなかったが、“Canadian raising” とよばれる [əu] と [əi]⁸⁾ という二重母音があり、カナダ英語の母音の最大特徴とされる。前者は about や bout, house (名詞), mouth, out, shout, south など無声子音の前に現われる。そこで、よくカナダ人の発音では“out and about”が“oot and aboot”に聞こえるなどといわれる。後者 [əi] の発音は ice, life, nice, night, type, white, write などの母音で同じく無声子音の前に現われる。しかし、この二つの二重母音も有声子音の前では英米の標準音 [au] と [ai] になる [Trudgill & Hannah, 1982, 他]。

house	[həus]	houses	[háuziz]
lout	[ləut]	loud	[laud]
knife	[nəif]	knives	[naivz]
tight	[təit]	tide	[taid]

この音は18世紀後半の英国の発音を19世紀初めの移民がもたらしたもので、アメリカ東部の一部にも認められる。

2. 2 子音

アメリカとイギリスで発音の異なる代表的な語としてしばしば取り上げられる schedule 【質問4】の下線部の発音から始める。

[sk]	[ʃ]	either
66.2	20.3	13.5

アンケート調査でみる限り、米音が圧倒的に優位であるが、実態はそう単純ではない。カナダのラジオやテレビ（特にニュース番組）では、この語は必ず [ʃédjuːl] と英国風に発音される。また、なにかとアメリカと対抗することの多いオンタリオ州あたりでは英音のほう好まれる傾向にあるという。筆者の調査では同州出身者は8名にすぎないが、そのうち4名は「常に

英音で発音する」, さらに1名は「場合により両方を使い分ける」と回答している。この4人の回答者のひとりでもある大学教員(45歳男性)は「自分はアメリカ人と間違われるのが嫌で, 意識的にイギリス発音を身につけるよう常に努力した」と語ってくれた。BC州出身の別の大学教員(29歳男性)も同じような経験を話してくれた。筆者の生活体験から判断すると, 改まったり(formal), 公式の(official)場面などではイギリス発音が好まれるようである。

歴史的にみると, 実はこの2種類の発音はいずれもイギリスで発生したものである。MEの時代にフランス語から入り“cedule”と綴られていたが, 16世紀になってラテン語になって今日の綴り字となった。これに伴い19世紀初め頃までには[sk]という発音も少数ではあるが聞かれるようになっていた。カナダやアメリカへの移民は2種類の発音を携えて大西洋を渡ったのである[Scargill, 1977: 48]。

形容詞 greasy【質問12】の下線部の子音には[s][z]の2種類の発音が認められる。Scargill(1974)では米音では[s]が, 英音では[z]が多いと述べているが, 発音辞典LPDによると現在の英国での標準発音も[s]である。GCDの表記でも[s]のみであり, 筆者の調査結果でも無声音[s]が普通である。

[z]	[s]
8.1	91.9

luxury【質問24】の下線部にも通例[kʃ]と[gʒ]の2種類の発音がある。LPDのBrE poll panel preferenceでは96%が[kʃ]の発音を好むという。カナダ英語でも[kʃ]の発音が好まれていることが次の調査結果からわかる。

[kʃ]	[gʒ]	either
70.3	17.6	12.2

つぎに、子音の脱落（あるいは省略）現象と、その逆の現象について取り上げる。

arctic【質問11】の下線部の“c”は英米共に [k] と発音するが、約30年前に Avis は、カナダ人特有の発音現象として、これを省略することがある、と指摘している。これについての今回の調査結果は次のとおりである。

発音する	発音しない	たまに発音する
52.7	32.4	14.9

Scargill によれば、この語は ME 期に OF “artique” から取り入れられ、17世紀になってラテン語との類推から c という文字が挿入され [k] 音が生じたもので、すわりの悪い (awkward) 子音連続を生じることになり、この子音を省略したいという気持ちは当時からあったという。

では、often【質問42】の子音“t”はどうであろうか。この t を発音するのは今日の英米では少数派であり、この語は1972年の語法調査にも含まれていない。しかし、カナダ滞在中にしばしば耳にするので、ある informant に尋ねたところ、笑いながら “I often [ɔɪfn] say often [ɔftn]” という返事が返ってきたので興味を抱き、今回の調査項目に追加してみた。

発音する	発音しない	時々発音する
52.7	28.3	18.9

男性の場合は59.4%が常に t を発音し、「時々発音する」と答えた者を含めると71.9%に上る。女性の場合も「t を発音する」と答えた数が半数を超えている。GCD は両方の発音を併記している。

almond【質問32】中の文字“l”は、ME において綴り字のうえでのみ挿入された文字であり、いわゆる標準英語では発音されない。GCD でもこの文字は黙音である。しかし、Scargill の調査でも、今回の筆者の調査でも、6割以上のカナダ人がこの l を発音すると回答している。

発音する	発音しない
60.8	39.2

これは地域（出身州）・年齢・性別にかかわらず見られる現象である。

McConnell (1979 : 34) は, often や almond の黙字を発音するのは綴り字が視覚に与える影響によるもの (spelling pronunciation) と述べているが, almond はともかくとして often の t はもともと発音されていたのではないだろうか。

カナダ人は butter 【質問14】 という語の -tt- 部分をしばしば [d] と発音するということが多くの人によって指摘されている。これは必ずしもカナダ英語に限られた現象ではないが, informal または casual なカナダ人の会話によく認められる発音である。

[d]	[t]	無回答
41.9	56.8	1.4

アンケート調査の際には自分の発音を意識するので実際より数値が低くなることがあるが, 無意識の会話中ではよく [d] 音になることがある。

Orkin (1988) は, かなりの誇張とユーモアを込めて [t] 音が [d] に変わるカナダ英語 (Canajan) の例を随所にあげている。

Alberta → Albirda	better → bedder	bitter → bidder
bottom → boddum	British → briddish	city → sidy
veteran → vedderan	dirty → dirdy	daughter → dodder
Ottawa → Oddawa	gotten → godden	great → grade

したがって, Great Britain は Grade Bridden となる。

今回の調査では取り上げなかったが, 上に述べた [t] → [d] の変化とならんで informal な場面でのカナダ人の英語の特徴として, 子音連続 -nt- が -n(n)- となることが指摘されている。この現象もカナダ英語に限らずアメリカ英語にも広く認められているが, 一応触れておく価値はあるだろう。

want to が wanna になることはよく知られているが、winter は winner に、twenty は twenny というように変化する。筆者の耳にした例では、Toronto が Trono に、international が innernational などのように発音の変わる場合がある。

congratulate 【質問37】の下線部の標準発音は [tʃ] であり、[dʒ] は非標準的な発音である。しかし、かなりの数のカナダ人が [dʒ] と発音していることが今回の調査で判明した。

[tʃ]	[dʒ]	either
59.5	33.8	6.8

「which と witch の発音は同じか？」という【質問40】に対しては、圧倒的多数が「同じである」と答えており、[hw] 音と [w] 音との区別は失われつつあるように思われる。

はい	いいえ
82.4	17.6

この区別の消失は18世紀後半にイングランド南部で始まったが、北部やスコットランド、アイルランドでは今日でも残っている。

2. 3 その他

アルファベットの最後の文字“Z”【質問7】は、アメリカでは [ziː], イギリスでは [zed] と呼ばれることはよく知られている。カナダではイギリス風に [zed] という発音が優勢である。

	20未満	20代	30代	40代	50代	60以上	計
[zed]	0	12.2	2.7	1.4	1.4	2.7	20.3
[ziː]	1.4	21.6	14.9	14.9	6.8	2.7	62.2
either	2.7	5.4	2.7	4.1	2.7	0	17.6

年齢層で見ると、わずかではあるが若い世代に [ziː] がみられるが、性差

は認められない。

カナダの学校教育は伝統的にイギリスを手本としてきた。そのためにアルファベットの発音は一般にイギリス風に発音される。ところが、ジャーナリストの Malcolm は *The Canadians* (1983) という本の中で、カナダでも放送されているアメリカの幼児向けテレビ番組 “Sesame Street” の影響で子供たちが [zi:] という発音を身につけるようになったと述べている。

vase 【質問6】 という語は、代表的な米音では [veis] または [veiz] で、英音では [va:] である。ところが調査では次のような興味ある結果が得られた。

[vɔ:]	[veis]	[væs]	[veiz]	[vɑ:]	
55.4	10.8	2.7	18.9	18.9	(複数回答)

paws と韻を踏む [vɔ:] は今日では「古風な (archaic)」発音とされているが、カナダでは東部4州を除いて今日でもよく用いられている発音であることがわかる。3番目の [væs] は Scargill の調査ではカナダ東部に多い発音であるが、本稿調査での回答者2名はいずれも BC 出身者である。

lieutenant 【質問20】 は、米国発音では [u:]、英国では単母音に [f] 音が加わり [ef] と発音されるが、多くのカナダ人はアメリカ風の発音をする。[u:] という発音は既に14世紀に英国で使用されていたという記録がある。この発音がアメリカで優勢なのは、Webster の影響によるものである。

[u:]	[ef]	either
77.0	13.5	9.5

男性には英国風に [ef] と発音する人が25%位いるが、女性ではきわめて稀であり、調査では42人中2名だけであった。

BC 生まれの筆者の友人は BC 州政府に勤めるようになったある日、親しい仲間の集まった所で雑談中、副総督 (lieutenant governor = 州政府の最高責任者) のことを [léftenənt] と発音し、途端に皆から「お前は、つ

い先日まで [lúːtənənt] と発音していたのに、すっかり官僚言葉になってしまって...」と冷やかされていたが、これも改まった場面ではイギリス発音が好まれるという一例である。

最後に、音節と発音との関係を少しみておきたい。

「caramel」という語は何音節か? という【質問15】に対しては、次のような結果が出ている。

2 音節	3 音節	無回答
21.6	77.0	1.4

この結果は car-a-mel の下線部の母音が省略される場合が少ないことを示している。

次に「film という語は何音節か?」【質問29】に対する答の分布は次のとおりである。古い17世紀頃の英語では m が独立した音節を形成することがあったが、現代カナダ英語では、そのような傾向はほとんどみられないといってもよいだろう。

1 音節	2 音節	無回答
91.9	6.8	1.4

アメリカでは dictionary や secretary のような多音節語には -ary に第2強勢を置き, dictionâry, sécretâry と発音する傾向がある。イギリスでは、この a の部分が省略され dictionry, sécretry のようになる。カナダでは両方の発音が用いられているが、GCD にはアメリカ発音のみが載っている。millinery, obligatory, monastery などの語にも同じような発音の傾向があるといわれる。

3. カナダ英語の発音の特徴

上の調査結果からもわかるように、カナダ人の発音にはアメリカ英語と同

じもの、イギリス英語と同じもの、カナダ独特の発音の少なくとも3種類が認められる。ate や tomato, leisure, missile などではアメリカ発音が優位である。他方, ration や lever, soot, route, anti- や semi- という接頭辞中の i, アルファベットの Z などではイギリス発音が好まれる。しかし, new や student の母音, either, schedule, lieutenant などには英米両音が併存する。out, write, guarantee, caught, aunt の母音や arctic, almond, congratulate の子音, vase の発音などにはカナダ独特の特徴がみられる。これらの多くは、もともと英国（の一部）で使われていた発音が今日まで残っているものである。

カナダ英語を考察するにあたっては、この国への移民の歴史という視点を忘れてはならない。ある特定の言語現象を比較する際に、どのような経緯でその現象が生じたのかを考える必要がある。この一見したところ無秩序な混在状態もカナダの置かれた歴史的・地理的・政治的・経済的・文化的諸条件を考慮すると、かなりの部分の説明がつく。この点については、既に別の箇所⁹⁾で述べたことがあるので、ここでは概略だけを振り返ってみる。

イギリスから北米（現在のカナダとアメリカ合衆国）への初期の移民がもたらした英語は Shakespeare が活躍していた時代、いわゆるエリザベス朝の英語であった。北米では当時の英語の多くが今日まで引き継がれてきたのである。一方、英国では the Great Vowel Shift が進行中であり、その後も発音変化は続き、新しい発音が生まれてきたのである。今日北米で使用される英語の発音とイギリス英語の発音の違いの原因の一つはここにある。また、米音が英音よりも歴史的に古い場合があるのも上に述べたような事情による。

さらに、19世紀前半には大量の移民が英国から北米に渡ったが、彼らもまた自分たちの時代のイギリス英語を携えて海を渡ったのである。しかも、これらの移民の多くは現在の標準的イギリス英語の祖となったイングランド南部よりも北部イングランドやスコットランド、アイルランドの出身で、それぞれの地方で話されている英語（方言）を携えて海を渡ったということを忘れてはならない。イギリス英語そのものが複数の発音体系を有していた（そ

して現在も有している) のである。

このことがカナダ英語独自の要素を産む一因ともなっている。カナダ英語の out や write, father, calm, aunt, caught などの発音は、イギリスにおける母音変化以前の英語を移民がもたらした結果によるものである。

18世紀後半のアメリカの独立をきっかけとして、カナダとアメリカは別々の国家としての道を歩むことになる。カナダ植民地はあくまでイギリス本国の支配下にとどまる道を選択し、政治的・経済的・文化的に本国とのつながりを保ち続けた。今日のカナダ英語とイギリス英語に共通点がみられるのは、このような事情による。カナダ人が Z を [zed] と発音するのは、イギリスを手本とした教育方針の結果である。

異なる道を選択したとはいえ、地理的に隣接したカナダとアメリカの間には常に密接な接触や交渉が行なわれてきた。そして、今世紀における2度の世界大戦は両国を一層緊密に結びつけることになった。カナダは政治的にも経済的にもイギリス依存から脱却し、アメリカとの結びつきを深めた。文化的には日常生活の隅々にまでアメリカの影響がある。当然、言葉の上での影響も免れない。new や student の発音に「揺れ」がみられるのはそのせいかもしれない。アメリカのテレビ番組・広告がカナダ人（特に子供たち）の言葉に与えている影響はきわめて大きい。

これに対してカナダ人の identity を守ろうとする人たちは、アメリカ英語の影響を排除しようとして、意識的にイギリス英語を使用することがある。改まった場合に schedule や lieutenant などをイギリス風に発音するのも、この国の置かれた状況をよく物語っている。国営放送 CBC のニュース番組ではイギリス風の発音とイントネーションが聞かれる。Greenbaum (1990 : 19) は次のように述べている。

Linguistically, Canadian English is closest to American English; for more than a century before the American revolution, Canadians and Americans enjoyed a common culture, and subsequently there have been close cultural and commercial ties between the

two countries. But Canadians are apprehensive about intrusions from their powerful neighbor, and the threat that they see to their separate identity is reflected in their exaggeration of the differences between Canadian and American English.

カナダ人の発音を個人的生活体験からの印象をも含めて判断すると、社会的階層による違いは少ない。確かに、教養の高い人々の間では、そして改まったり公式の場面ではイギリス風の発音を好む傾向が認められるが、さほど強いものではない。他人の発音に対して寛容的なところがある。綴り字¹⁰⁾にしても、語彙にしても英米両用法が共存している社会である。特に筆者が調査したバンクーバー地域では今なお多くの外国からの移民と国内からの人口流入が続いており、すぐ南に国境を控えてアメリカとの往来が日常的に行われている状況の下では自然と寛容的にならざるを得ないのである。

4. むすび

本稿の発音調査結果だけでカナダ英語の発音についての性急な結論を出すわけにはいかない。初めにも断わったように、この調査対象者は数も限られ、しかも BC 出身者が大半を占める。カナダ英語の中でも独特の特徴を持つといわれている Newfoundland 地方の実態には全く触れていない。また、42という調査項目は数の上でも不十分であろう。音声面での重要な側面であるイントネーションについても記述する余裕がなかった。このような制約はあるものの、本稿で考察した対象がオンタリオ州以西の広大な地域で用いられている極めて均質的 (remarkably homogeneous) で Standard Canadian English と呼ばれる英語であることを考慮すると、カナダ英語に関するいくつかの特徴は明らかになったのではなかろうか。

言語は常に変化する。なかでも発音と語彙は、社会的レベルでも個人のレベルでも変化は避けられない。ある回答者 (60歳男性) は「若い頃からの自分自身の発音を振り返ってみると明らかに変化している」と述懐している。交通、通信手段、教育の発達に伴い国内の地域差 (方言) が徐々に失われ共

通部分が拡大していくなかで、そして南の巨人アメリカの強い影響のなかで、カナダ英語が今後どのように変容していくのか、興味のない研究テーマである。

〔注〕

- 1) アンケート調査実施にあたり Douglas College で英語研修中の桃山学院大学文学部学生諸君に協力して頂いた。ここに記して謝意を表明したい。
- 2) 改めて指摘するまでもなく、アメリカ英語とかイギリス英語と呼ばれる英語自体が多くの方言を抱えている。したがって、本稿でアメリカ英語とかイギリス英語の発音という場合には、一般辞書に記載されている代表的な発音を指す。
- 3) 本稿では、日本人に最も親しみのある国際音標文字の簡易表記を発音記号として使用することにした。
- 4) *LPD* の poll panel preference では、[et] の発音は55%で [eit] は45%。
- 5) creek は英国では「入江・小湾」を指す。バンクーバーの False Creek はイギリス植民地時代の1850年代に名付けられたもので、「入江」の意。
- 6) この音は後述の out や house などの母音と同じであり、カナダ英語特有の発音を考慮するなら [əu] と表記すべきかも知れない。
- 7) この音を let と韻を踏む [e] とする説もある。
- 8) この二つの二重母音をそれぞれ [Au] [Ai] と表記することもある。
- 9) 拙稿「カナダ英語小史」, 『英米評論』創刊号(1990年3月)参照。
- 10) 拙稿「カナダ英語の綴り字」, 『英米評論』第2号(1990年7月)参照。

参考文献

- Avis, W. S. *et al.* (1983) : *Gage Canadian Dictionary*. W. J. Gage Ltd.
- Greenbaum, S. (1990) : "Whose English?", in Ricks, C. & L. Michaels (eds.), *The State of the Language*. University of California Press, 15-23
- McConnell, R. E. (1979) : *Our Own Voice: Canadian English and how it is*

- studied*. Gage Educational Publishing Ltd.
- Orkin, M. M. (1988) : *Canajan, Eh?* 3rd ed. Stoddart Publishing Co. Ltd.
- Scargill, M. H. (1974) : *Modern Canadian English Usage: Linguistic Change & Reconstruction*. McClelland and Stewart Ltd.
- (1977) : *A Short History of Canadian English*. Sono Nis Press
- Trudgill, P. & J. Hannah (1982) : *International English: A Guide to Varieties of Standard English*. Edward Arnold
- Wells, J. C. (1990) : *Longman Pronunciation Dictionary*. Longman

参考：カナダ英語の発音に関するアンケート

本稿のもととなった語法調査の質問42項目は以下のとおりである。

1. How do you pronounce lever ?
 - (a) to rhyme with beaver
 - (b) to rhyme with never
 - (c) either way
2. How do you pronounce new ?
 - (a) to rhyme with do
 - (b) to rhyme with few
3. How do you pronounce the u in student ?
 - (a) like the oo in too
 - (b) like the u in use
 - (c) either way
4. How do you pronounce the sch- in schedule ?
 - (a) like the sch- in school
 - (b) like the sh- in shoe
 - (c) either way
5. How do you pronounce genuine ?
 - (a) to rhyme with fin
 - (b) to rhyme with fine
 - (c) either way
6. How do you pronounce vase ?
 - (a) to rhyme with paws
 - (b) to rhyme with face
 - (c) to rhyme with jazz
 - (d) to rhyme with pays
 - (e) to rhyme with ah's

7. What do you call the letter Z ?
- (a) zee
 - (b) zed
 - (c) either one
8. How do you pronounce the i of the prefix semi- in semi-final ?
- (a) to rhyme with my
 - (b) to rhyme with me
 - (c) either way
9. How do you pronounce the i of the prefix anti- in anti-war ?
- (a) to rhyme with my
 - (b) to rhyme with me
 - (c) either way
10. How do you pronounce bury ?
- (a) to rhyme with berry
 - (b) to rhyme with furry
 - (c) either way
11. Do you pronounce the first c in arctic ?
- (a) yes
 - (b) no
 - (c) sometimes
12. How do you pronounce greasy ?
- (a) to rhyme with easy
 - (b) to rhyme with fleecy
13. How do you pronounce the a of tomato ?
- (a) like the a of rate
 - (b) like the a of farm
 - (c) like the a of rat
 - (d) like the o of rot

14. Does the -tt- of butter sound like the -dd- of shudder ?
(a) yes
(b) no
15. How do you pronounce caramel ?
(a) with two syllables as in car + mel
(b) with three syllables as in car + a + mel
16. How do you pronounce father ?
(a) like the o of bother
(b) like the a of lather
(c) like the a of farm
(d) like the a of father
17. How do you pronounce the a of calm ?
(a) like the a of farm
(b) like the a of cat
(c) like the a of Sam
(d) like the o of bomb
18. Do you pronounce squirrel to rhyme with curl ?
(a) yes
(b) no
19. How do you pronounce the second part of again ?
(a) to rhyme with pane
(b) to rhyme with pen
(c) to rhyme with pin
20. How do you pronounce the first part of lieutenant ?
(a) like left
(b) like loot
(c) either way
21. How do you pronounce leisure ?

- (a) to rhyme with pleasure
 - (b) to rhyme with seizure
 - (c) either way
22. How do you pronounce the oo of roof ?
- (a) like the oo of moon
 - (b) like the oo of hook
23. How do you pronounce creek ?
- (a) to rhyme with lick
 - (b) to rhyme with leak
 - (c) either way
24. How do you pronounce the first part of luxury ?
- (a) to rhyme with lucks
 - (b) to rhyme with lugs
 - (c) either way
25. How do you pronounce the ei of either ?
- (a) like the i of bide
 - (b) like the ee of beet
 - (c) either way
26. Does cot rhyme with caught ?
- (a) yes
 - (b) no
27. How do you pronounce missile ?
- (a) to rhyme with thistle
 - (b) to rhyme with miss file
 - (c) either way
28. How do you pronounce the a of ate, as in He ate the apples ?
- (a) like the a of gate
 - (b) like the e of get

29. How do you pronounce film ?
(a) with two syllables, as in fill'em
(b) with one syllable only
30. How do you pronounce yeast ?
(a) to rhyme with best
(b) to rhyme with feast
31. Do ant and aunt rhyme ?
(a) yes
(b) no
(c) sometimes
32. Do you pronounce the l of almond ?
(a) yes
(b) no
33. How do you pronounce the o of progress, as in We make progress ?
(a) like the o of go
(b) like the o of got
34. How do you pronounce the word route ?
(a) to rhyme with shout
(b) to rhyme with shoot
(c) either way
35. How do you pronounce the ea of deaf ?
(a) like the e of deaf
(b) like the ee of meet
36. How do you pronounce the word home ?
(a) to rhyme with dome
(b) to rhyme with dumb
37. How do you pronounce the first t of congratulate ?
(a) like the tch of catch

- (b) like the dge of badge
(c) either way
38. How do you pronounce the a of ration ?
(a) like the a of cat
(b) like the a of date
39. How do you pronounce soot ?
(a) to rhyme with foot
(b) to rhyme with boot
(c) to rhyme with mutt
40. Do you pronounce the wh- of which or whine and the w of witch or wine in the same way ?
(a) yes
(b) no
41. How do you pronounce the first a of guarantee ?
(a) like the a of cat
(b) like the a of car
(c) like the a of care
42. Do you pronounce the t of often ?
(a) yes
(b) no
(c) sometimes

(1990. 9. 25 受理)

Canadian Pronunciation

Toru Miyake

Languages characteristically have regional varieties. The English language, being a world language, has several major national varieties. Thus the English spoken in Canada has its own distinct features as well as similarities to the varieties of English used in the United Kingdom and the United States.

In this paper I try to clarify Canadian preference in pronunciation, based on a survey conducted with 74 Canadians. The results show that Canadian speech sometimes follows a dominant American pattern, sometimes the British usage, sometimes a mixed pattern, and sometimes its own.

Canadians tend to pronounce such words as *ate*, *tomato*, *leisure*, and *missile* in the same way as most Americans do. Some of these words reflect features of 17th and 18th century English speech which have been retained in most of North America, including Canada, but changed over time in standard English. On the other hand, Canadians prefer British pronunciation in such words as *ration*, *lever*, *soot* and *route*. This can be partly ascribed to the fact that many Canadians have identified themselves more with Britons than with Americans since the American Revolution. However, the cultural and linguistic influence of the United States upon Canada has always been so strong that it is not surprising that Canadian speech shows a mixed pattern in such words as *student*, *progress*, *schedule*, etc.

At the same time, Canadians have their unique pronunciation in such words as *out*, *write*, *father*, *calm*, *vase*, *guarantee*, *almond*, etc., most

of which have been carried over from the days of the early 19th century immigrants from various parts of the British Isles, where phonological changes have long since taken place.

It is interesting to observe how Canadian speech will change in the years to come under the constant strong influence of the giant to the south.